

ブライアン・ウィリアムズ —満月写生と宴—

～大津サービスエリアからの展望～

滋賀県在住の風景画家、ブライアン・ウィリアムズ氏による満月写生の実演とトークが今年も西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部の後援を頂き、名神高速道路大津SAで開催されました。開催日の9月28日(月)は中秋の満月の翌日にあたり、また月が最も大きく見える「スーパームーン」の日でした。当夜は快晴に恵まれ開会の少し前に薄明りを残す東の空からやや赤みを帯びた月が現れ、やがて空高く上りこれぞ「スーパームーン」という姿を見せてくれました。約40名の参加者の皆さんは満月を写真におさめたり歓談したりしながら開会を待ちました。



定刻になりウィリアムズ氏による写生の実演が始まりました。軽妙なトークで参加者を和ませながら筆を走らせ、どのように画用紙上に画を作っていくかを実演されました。目に見える形そのままではなく画伯の心象表現の琵琶湖に上る満月です。



紙上で色が重ね合わされ画が浮かび上ってくる様はまるでマジックを見ているよう皆さん感嘆しきりでした。下が当日即席で描かれた絵です。



写生終了後場所を「グリル逢味」に移し宴の始まりです。食事を始める前にウィリアムズ氏による「琵琶湖をとりまく環境」についてのトークを聞きました。琵琶湖に魅せられ約30年前に湖西の地に移り住み、以来愛する琵琶湖の変わりつつある風景を見つめ続けてきた眼差しからの「景観は環境の健康を測るバロメーターである」との信条に基づく自然との共生の重要性と自然環境の保護再生を訴えるお話は心に響くものがあり、皆さん感銘を受けられたようでした。

さらに席上でびわ湖トラストの新たな取り組みである「びわ湖文庫」刊行の第1号としての「琵琶湖は呼吸する」(熊谷他著)の紹介があり、早速購入頂いた方もおられました。



トークに引き続いて「近江牛陶板焼き膳」に舌鼓を打ちながらの和やかな歓談が行われた後閉会しました。

天候に恵まれた満月写生鑑賞とウィリアムズ氏の風景描写の奥にある自然への優しいまなざしと自然環境保護への情熱に触れることができ有意義な時間が持てたと思います。

以上